

2023年度

科目名称	環境教育概論
授業コード	AC213
英語名称	Introduction of Environmental Education
学期	2023年度前期
単位	2.0
担当教員	古瀬 浩史 (生命環境学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	(B)自己実現能力 本講義は、現代社会の最重要課題の一つである環境問題の解決、持続可能な社会の実現に向けた教育的なアプローチとして「環境教育」を扱い、定義、歴史、位置づけ、特徴、手法、事例等について学ぶ。他の授業で学んだ科学・教育等に関する知識や技能の実践的な活用を考える機会とする。新聞等のメディアに掲載される、環境に関する新しいトピックや、環境教育実践事例を扱い、グループワークやディスカッションも取り入れて環境問題全般への理解を深める。
科目に関連する実務経験と授業への活用	講義は環境教育の専門団体の起業・経営経験のある教員が担当する「実践的科目」である。学校や社会教育において行われている環境教育のプログラム、特にアニマルサイエンス領域に関係したプログラムを講義内で実際に行い、それらの背景や考え方を支えている理論について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育とはどのようなものか、概説できるようになる。 ・環境教育の方法(プログラム)についての基本的な理解を得る。 ・SDGs に向かう環境教育の実践の機会や方法を具体的にイメージできる。 ・カリキュラム・ポリシーに掲げる「人と動物の『共生』」を実現しようとする教育的なアプローチを扱い、同時に「コミュニケーション力」を重視した内容とする。
計画・内容	<p>【計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) イントロダクション：教育によって世の中を変えることは可能か？ 本講義に設定している受講ルールや、評価基準等について 2) 環境教育とはなにか。定義、環境教育の必要性、歴史 3) 環境に関わる諸問題1：飢餓、格差、南北問題 4) 環境に関わる諸問題2：環境問題の歴史(公害、地球環境問題) 5) 環境に関わる諸問題3：気候変動、パリ協定 6) SDG's (持続可能な開発目標) 7) 環境教育の事例1「国立公園とインタープリテーション」 8) 環境教育の事例2「実践現場からの報告」(学内等からゲストのケースを想定) 9) 環境教育プログラム体験1 パッケージ・プログラム「プロダクト・ワイルド」等 10) 環境教育プログラム体験2 11) 環境教育プログラムと学習理論 12) 環境教育プログラム体験3 「食に関するプログラム」 13) 環境教育プログラム体験4 「コンセンサスづくりのプログラム」 14) 公的教育と環境教育 15) 授業全体のまとめ、マインドマップの作成
授業の進め方	<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着席場所を指定する場合がある。 ・講義形式+ワークショップ形式で行う。大人数の教室で可能な範囲でアクティブ・ラーニング的な方法で進める。(他の参加者とのコミュニケーションを含む) ・関連した分野のゲストによる話題提供を含める。 ・プログラム体験では室外(キャンパス内)で実施する場合がある。 ・ワークショップでの成果物、ミニレポートなどの課題を出題する。 ・講義資料はWebClassからPDFファイルで提供する <p>○授業時間外の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習：参考図書、講義で紹介する本を読む ・復習：講義ノートや講義資料を元に復習を行う。

2023年度

能動的な学びの実施	講義はグループワークを含み「能動的な学びの科目」に該当する。 知識の習得そのものよりも、講義で得た知識を本人が自らの経験や関心と結びつけて「どのように考えたか」を重視する。
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞での記事探し（約15時間） ・参考図書・資料を読む（15時間） ・講義内で提示する課題に係る作業（30時間）
教科書・参考書	参考書： インタープリター・トレーニング 自然・文化・人をつなぐインタープリテーションへのアプローチ ナカニシヤ出版 日本環境教育フォーラム編「日本型環境教育の提案」小学館 レイチェルカーソン著「センス・オブ・ワンダー」新潮社 など。（その他は授業で紹介）
成績評価方法と基準	数回出題するのミニレポート、グループワークの成果物（約50%）、授業最終回の時間内に作成するレポート内容（約50%）
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の提出物やコメントペーパーをもとに次回授業で追加説明や講義への反映を行う。 ・学生の発表の都度コメントを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの環境教育施設の見学、公募プログラムへの参加など、積極的に自主学習して欲しい。 ・他のほとんど全ての授業が、環境教育に関係している。特に「生態学」と名のつく授業は強く関連する。 ・2級ピオトープ計画管理士を一部試験免除で受ける際の前提科目の一つとなっている。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 非対面の場合はZOOMを用いたオンラインでの講義とする。 成績評価方法と基準 対面実施の場合と同様 その他 内容に記述している「環境教育プログラム体験」は非対面の場合、非対面で実施できるプログラム体験の内容に切り替える。